



JASDAQ

平成 20 年 4 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社 シベール
代表者名 代表取締役社長 熊 谷 眞 一
(J A S D A Q ・ 証 券 コード 2 2 2 8)
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 佐 島 清 人
電 話 0 2 3 - 6 8 9 - 1 1 3 1 (代 表)

(訂正)「平成 20 年 8 月期 中間決算短信 (非連結)」の一部訂正について

本日、平成 20 年 4 月 15 日に発表致しました平成 20 年 8 月期 中間決算短信 (非連結) に一部訂正すべき事項がありましたので、下記の通り訂正致します。

記

I. 訂正事項

平成 20 年 8 月期 中間決算短信 (非連結) (3 ページ)

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

II. 訂正内容

訂正箇所を下線で示しております。

《訂正前》

① 当中間会計期間の経営分析

当中間会計期間におけるわが国経済は、当初限定的と見られていた米国の所謂サブプライムローン問題が次第に世界的な金融不安に拡大、一方、原油や穀物などの商品相場は高騰し、それに反して株式相場や為替動向が不安定になり、また国内では建築基準法の改正によって新規住宅着工件数が落ち込むなど、数年間続いた緩やかな拡大傾向から一転して景況感の悪化が目立つようになりました。当社の事業が依存する個人消費につきましても、総務省の家計調査によりますと、平成 19 年 11 月に 1 世帯当たりの消費支出が 4 カ月ぶりにマイナスに転じ、その後も概ね横這いが続くなど、変調の兆しが出ております。

こうした経営環境のもと、当社では各地の有力百貨店へ「CYBELE&麦工房」店舗の出店を進めて参りました。当中間会計期間におきましては、平成 19 年 9 月に「山形大沼店」及び「富山店」、平成 19 年 10 月には「名古屋店」と連続して出店致しました。また商品面では、平成 19 年 11 月に焼菓子「仕合わせのバトン」を新発売し、主力のラスクにおいては一部店舗での限定販売としていた「ラスク メープル&くるみ」を全国発売に切り替えるなどの施策をとって参りました。生産面におきましては、平成 19 年 10 月にラスク専用ライン「麦工房」を増設し増産体制を整えております。

これらの諸施策の結果、当中間会計期間の売上高は 2,169 百万円となり、前中間会計期間に比べ 0.6%の増収とすることができました。しかしながら、店舗の増加に伴う人件費増によって販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は前中間会計期間に比べ 20.0%減少し 237 百万円となりました。中間純利益は、特別損失が減少したことにより前中間会計期間に比べ 14.6%増の 115 万円とすることができました。

《訂正後》

① 当中間会計期間の経営分析

当中間会計期間におけるわが国経済は、当初限定的と見られていた米国の所謂サブプライムローン問題が次第に世界的な金融不安に拡大、一方、原油や穀物などの商品相場は高騰し、それに反して株式相場や為替動向が不安定になり、また国内では建築基準法の改正によって新規住宅着工件数が落ち込むなど、数年間続いた緩やかな拡大傾向から一転して景況感の悪化が目立つようになりました。当社の事業が依存する個人消費につきましても、総務省の家計調査によりますと、平成19年11月に1世帯当たりの消費支出が4カ月ぶりにマイナスに転じ、その後も概ね横這いが続くなど、変調の兆しが出ております。

こうした経営環境のもと、当社では各地の有力百貨店へ「CYBELE&麦工房」店舗の出店を進めて参りました。当中間会計期間におきましては、平成19年9月に「山形大沼店」及び「富山店」、平成19年10月には「名古屋店」と連続して出店致しました。また商品面では、平成19年11月に焼菓子「仕合わせのバトン」を新発売し、主力のラスクにおいては一部店舗での限定販売としていた「ラスク メープル&くるみ」を全国発売に切り替えるなどの施策をとって参りました。生産面におきましては、平成19年10月にラスク専用ライン「麦工房」を増設し増産体制を整えております。

これらの諸施策の結果、当中間会計期間の売上高は2,169百万円となり、前中間会計期間に比べ0.6%の増収とすることができました。しかしながら、店舗の増加に伴う人件費増によって販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は前中間会計期間に比べ20.0%減少し237百万円となりました。中間純利益は、特別損失が減少したことにより前中間会計期間に比べ14.6%増の115百万円とすることができました。

以上